

配

布

資

料

平成二十九年度設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝4

日時 平成30年3月3日(土)

午後1時~4時

会場 設楽町田口特産物振興センター
(設楽町田口字向木屋3番地1)



マサノ沢遺跡出土ハート形土偶

平成29年度の設楽ダム関連の発掘調査
大畑遺跡の発掘調査
マサノ沢遺跡の発掘調査
西地・東地遺跡の整理調査

講演 私たちが北設楽で縄文時代の遺跡の調査をしたころ

座談会 大名倉地区の縄文時代遺跡

野口哲也 (愛知県教育委員会)

鈴木恵介 (愛知県埋蔵文化財センター)

永井宏幸 (愛知県埋蔵文化財センター)

川添和暁 (愛知県埋蔵文化財センター)

平野吾郎 (磐田市文化財保護審議会会長)

平野吾郎・川添和暁・永井邦仁 (愛知県埋蔵文化財センター)

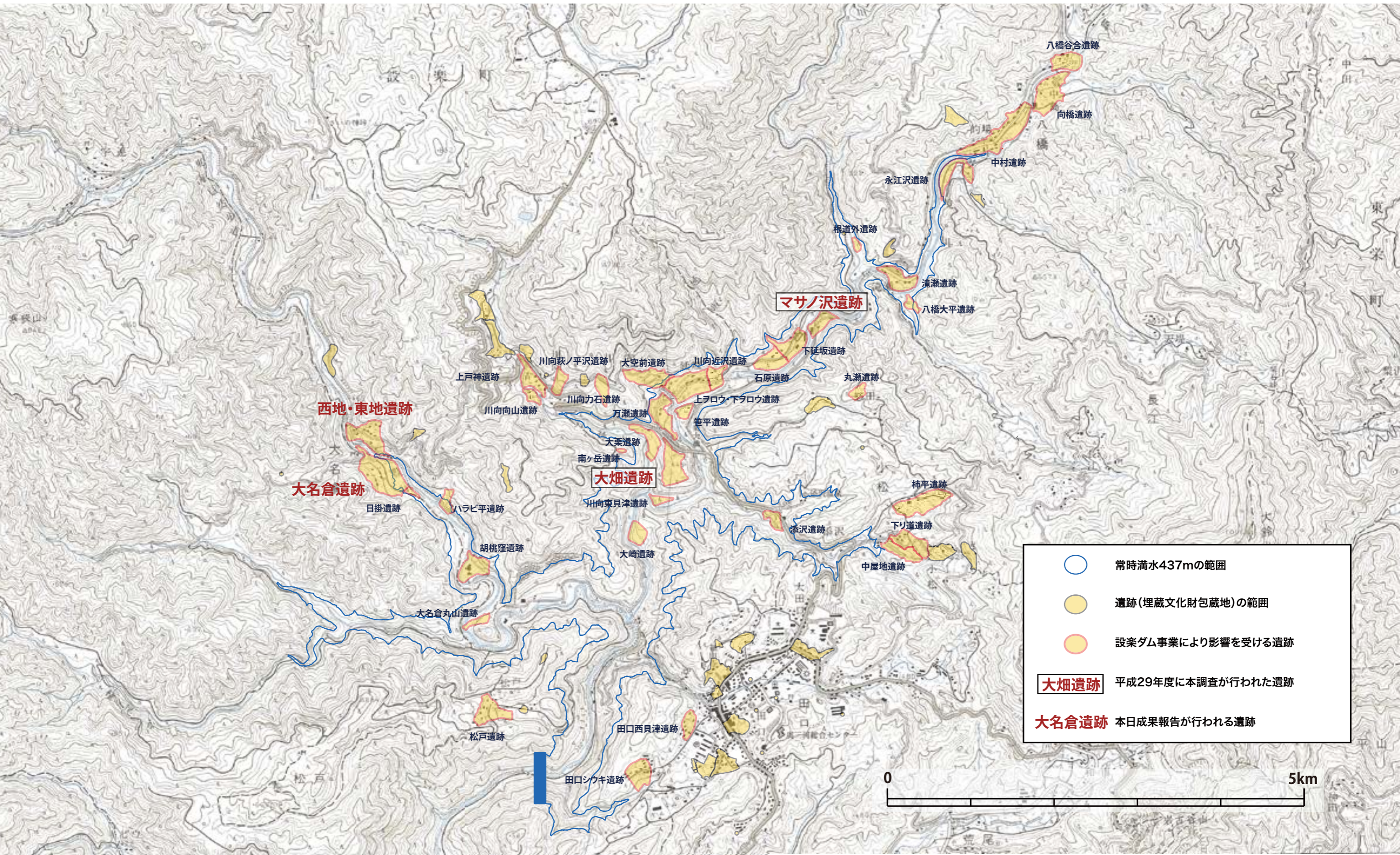
主催 設楽町教育委員会

国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務局

(公財) 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

愛知県教育委員会

設楽ダム関連遺跡地図



1.平成29年度 設楽ダム関連発掘調査について

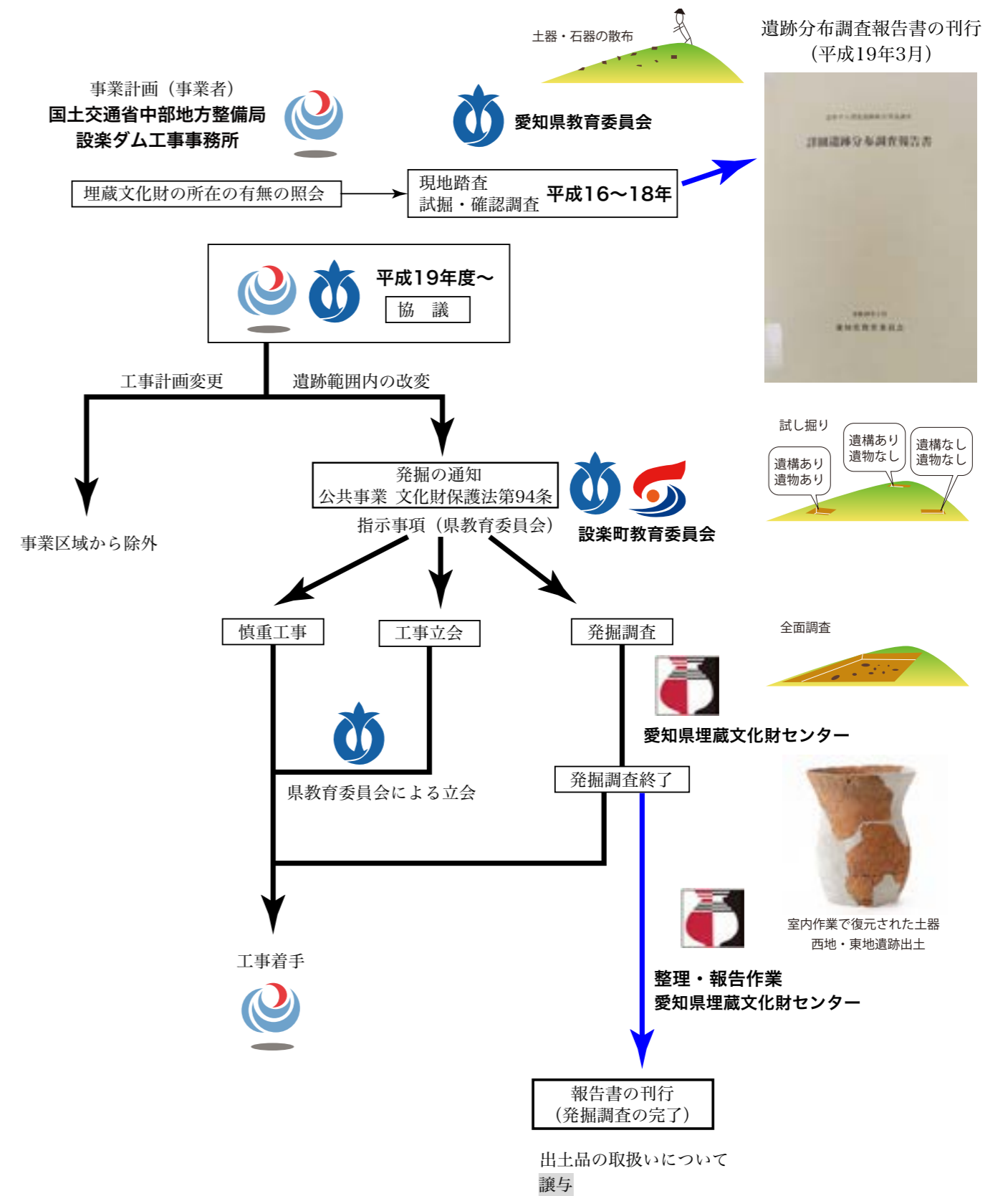
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室 野口 哲也

1. はじめに
2. 開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続
3. 平成29年度設楽ダム関連の発掘調査について

平成29年度 発掘調査遺跡一覧

遺跡名	面積 (㎡)
大畑遺跡	13,950
マサノ沢遺跡	2,050
合計	16,000

開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続について



2. 大畑遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 鈴木 恵介

所在地：北設楽郡設楽町川向地内（北緯35度6分33秒 東経137度33分58秒）

調査期間：平成29年5月～平成30年1月

調査面積：13,950㎡

調査担当者：鈴木正貴・鈴木恵介・早野浩二・永井邦仁・松田訓・永井宏幸

立地と環境

大畑遺跡は東から境川、北から戸神川の2つの川が合流する場所の北東側丘陵上にあります。遺跡の範囲には、西側と東側の2カ所のピークをもつ丘陵があり、2つの丘陵間は谷が形成されています。今回の発掘調査はこの谷の周辺を中心に行ったもので、縄文時代中期～後期（4500～3500年前）の遺構や遺物が出土しています。

調査の成果

今年度の調査で検出された遺構には、^{たてあな}たてあな建^{たてあな}物跡12棟（同じ場所での重複を含む）、^{しゅうせきろ}集石^{おと}炉1基、^{あな}陥し^{あな}穴8基等があります。これらの遺構は、^{たてあな}たてあな建^{たてあな}物跡は西側の丘陵頂部周辺に5基、中央の谷周辺に6基、南の丘陵先端頂部付近に1基分布しています。

特徴的な^{たてあな}たてあな建^{たてあな}物跡として、南側の丘陵先端部にある065SIは、内部の^{いしがこいろ}石^{いしがこいろ}囲炉に長野県南信地域で検出例のある^{ふくろ}副^{ふくろ}炉とよばれる装飾的な小型の炉が付属しており、愛知県内では初の検出例となります。また、300SIで検出された炉も石が円形に並べられた特異な形状で、こちらは豊田市（旧稲武町）ヒロノ遺跡や長野県諏訪地域に類例がありますが、いずれも珍しい検出例となっています。

西側の丘陵上の^{たてあな}たてあな建^{たてあな}物の中程に位置する362SIは、新旧2つの石^{いしがこいろ}石^{いしがこいろ}囲炉を持ち、改築されたものと思われます。さらにこの362SIは、埋没した後に跡地に石列が並べられ、すぐ脇に石^{いしがこいろ}石^{いしがこいろ}組炉が造られるなど、^{たてあな}たてあな建^{たてあな}物の廃絶に関わる儀礼と思われる行為も行われています。

陥し^{あな}穴8基については谷部に分布します。遺物の出土は確認されていませんが、時期は縄文時代と思われます。

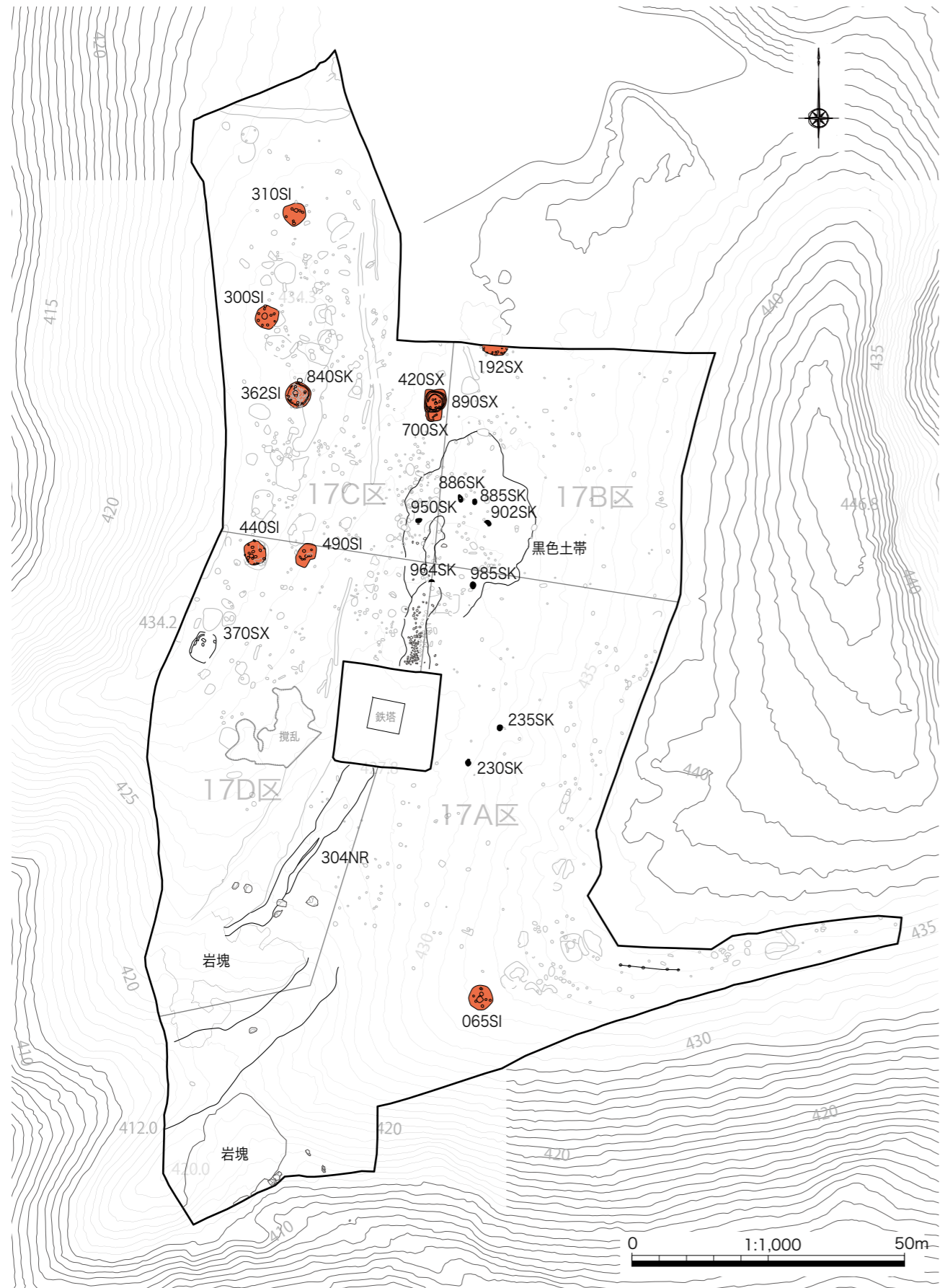
谷部には黒色土が厚いところで60cm程堆積し、特に西側には^{すりいし}磨^{すりいし}石・^{たたきいし}敲^{たたきいし}石、^{いしざら}石^{いしざら}皿等の^{けんか}堅^{けんか}果類の加工に関わると考えられる遺物も出土しています。



大畑遺跡遠景（北より）



大畑遺跡谷部中央の黒色土（東より）



大畑遺跡 平成29年度調査区と遺構の分布傾向



竪穴建物跡065SI (北より)



065SI内石囲炉 (東より)



竪穴建物跡300SI (南東より)



300SI内石囲炉 (東より)



竪穴建物跡362SI (東より)



362SI内石囲炉 (南東より)



竪穴建物跡 420SI・700SI・890SI他 (東より)



竪穴建物跡440SI (東より)

3.マサノ沢^{さわ}遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 永井 宏幸

所在地：北設楽郡設楽町川向字東貝津（北緯35度7分4秒 東経137度34分35秒）

調査期間：平成29年7月～平成30年1月

調査面積：2,050㎡

調査担当者：鈴木正貴・永井宏幸

立地と環境

マサノ沢遺跡は寒狭川の支流にあたる境川左岸の幅の狭い^{だんきゆうめん}段丘面に立地しています。現況は県道設楽根羽線を挟んで山側が茶畑と山林、川側が水田・畑地および宅地でした。標高は山側の高いところで405m、川側の低いところで400m前後です。

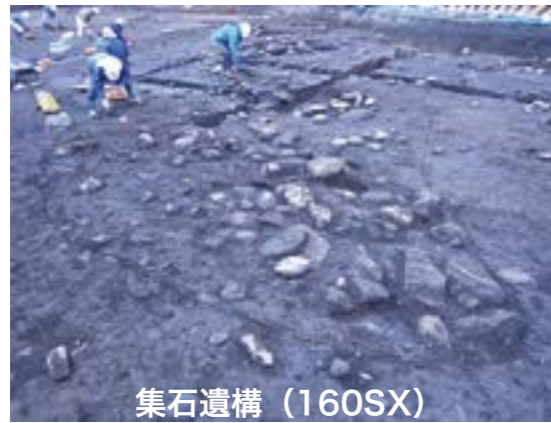
調査の成果

遺跡は大きく2つの時期を中心に見つかっています。

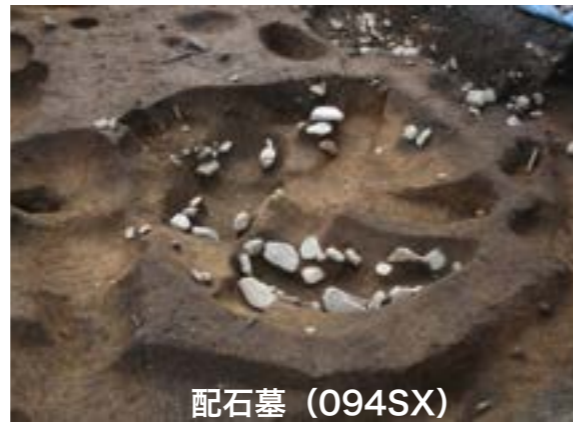
縄文時代後期（約4000年前）を中心とする時期は、平石を棺の輪郭に沿って配置した^{はいせきぼ}配石墓と呼ばれている墓とこれらに関連する直径2m前後の大型土坑などが見つかっています。後期の石を配した墓はいままでに愛知県内に発見例がありません。なかでも配石墓195SKから出土した^{がんぐう がんばん}岩偶・岩版類は注目できます。一つの墓から大中小3つのサイズが見つかっています。そのほか東海初出土のハート形^{どぐう}土偶と岩偶・岩版類が各1つ見つかった土坑159SKなど、縄文時代後期の祭祀具として使用された道具が多く見つかっています。

縄文時代晩期末から弥生時代前期（約3000～2500年前）を中心とする時期は、土器を棺として利用した^{どきかんぼ}土器棺墓が6基見つかっています。おもに深鉢を使用した棺で、この時期に特徴的な墓がまとまって発掘された重要な調査例です。





集石遺構 (160SX)



配石墓 (094SX)



配石墓 (195SK)



配石墓 (190SK)



土器棺墓 (427SK)



土器棺墓 (186SK)



土器棺墓 (143SK)



土器棺墓 (066SK)



岩偶・岩版類 (195SK 出土)



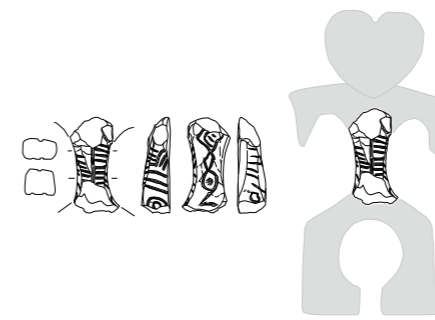
遺物集積 (179SK 出土)



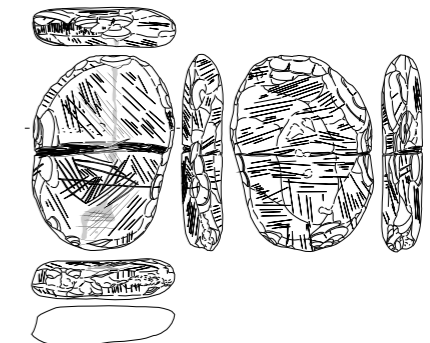
有溝石錘 (426SK 出土)



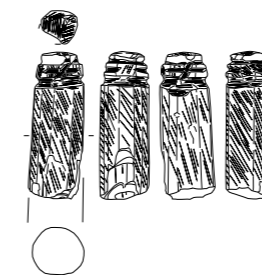
石棒・石刀類



ハート形土偶 (159SK 出土)



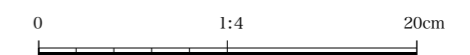
岩偶・岩版類 (159SK 出土)



石棒・石刀類 (179SK 出土)



岩偶・岩版類 (195SK 出土)



にしじ ひがしじ 4. 西地・東地遺跡の整理作業

愛知県埋蔵文化財センター 川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字西地、東地（北緯35度6分41秒 東経137度32分37秒）

整理期間：平成29年4月～平成30年3月

発掘調査年（面積）：平成26（4,220㎡）、平成28年（340㎡）

整理担当者：川添和暁

立地と環境

西地・東地遺跡は標高約450m、寒狭川^{かんさがわ}左岸の山から伸びる傾斜地および河岸段丘^{かがんだんきゅう}上に立地します。平成26年・平成28年の調査によって、縄文時代中期末から後期初頭（今から約4,400年前頃）を中心とする縄文時代の集落跡と中世以降の活動様相が発掘調査によって明らかとなりました。ここでは、その後の発掘調査記録の検討や出土遺物の分析など、室内での整理調査の概要と成果について報告します。

整理調査の概要

発掘調査で出土した遺物は、洗浄後に以下のような経過で分析を行いました。その上で、最終的には発掘調査報告書という書籍の形に編集され、刊行となります。

1. 素材による分類（土器・陶器・石器・木器・金属器など）【素材分類】
2. 素材分類別に時代・時期・器種の分類【時代・器種分類】
3. 素材分類や時代・器種分類別に、接合関係の検討【接合】
4. 素材分類や時代・器種分類別に、出土遺物の点数・重量の記録【統計的処理】
5. 特徴的遺物について、実測図化および写真撮影【画像記録】
6. 必要に応じて自然科学的分析の実施
7. 1～6の分析・検討結果を発掘調査記録と照らし合わせた、遺跡の総合的検討

※画像記録の前に、全体の形が分かるように、復元作業を行う場合もあります。

また、大きく接合できる場合にも、充填材を入れつつ復元を行うこともあります。

整理調査の成果

14B区・16区で縄文時代後期初頭の集落跡が見つかったものの、それ以外の縄文時代についても、遺物の分布状況により、当時の活動の濃厚な場が明らかとなりました。出土遺物については、伊那地域の影響を受けた土器や黒曜石^{こくようせき}の多量出土など、信州地域の関係性を見つつ、東三河山間部の様相を示す好資料となったといえます。

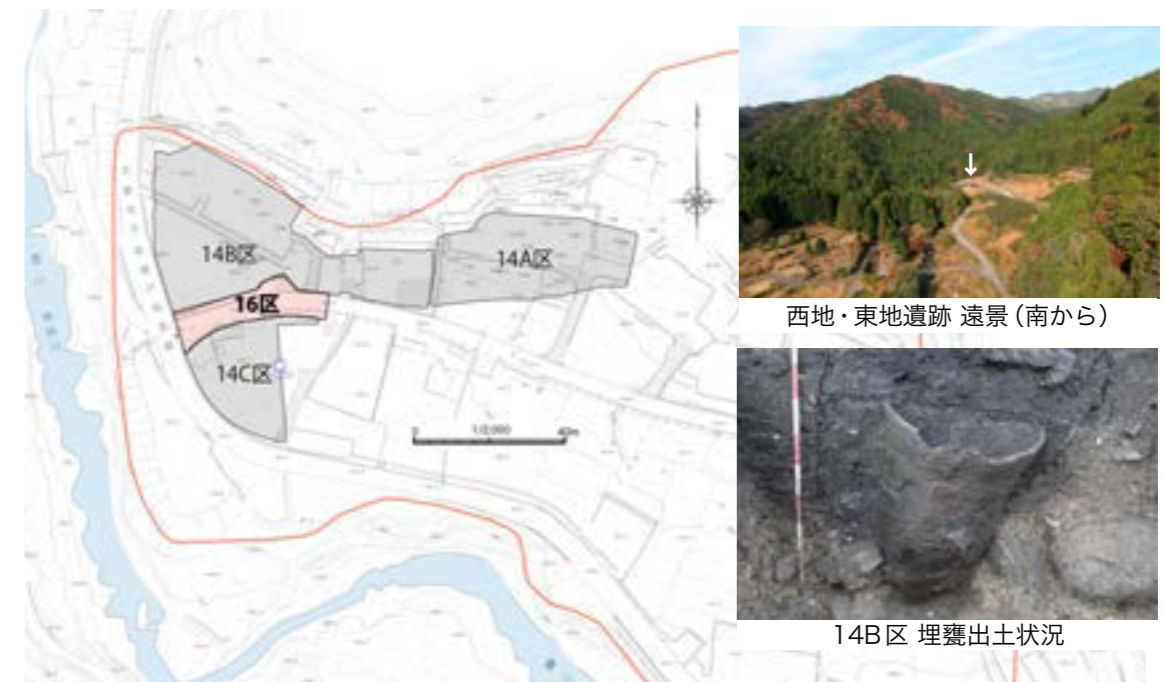


図1 調査区位置図（1:2,000）

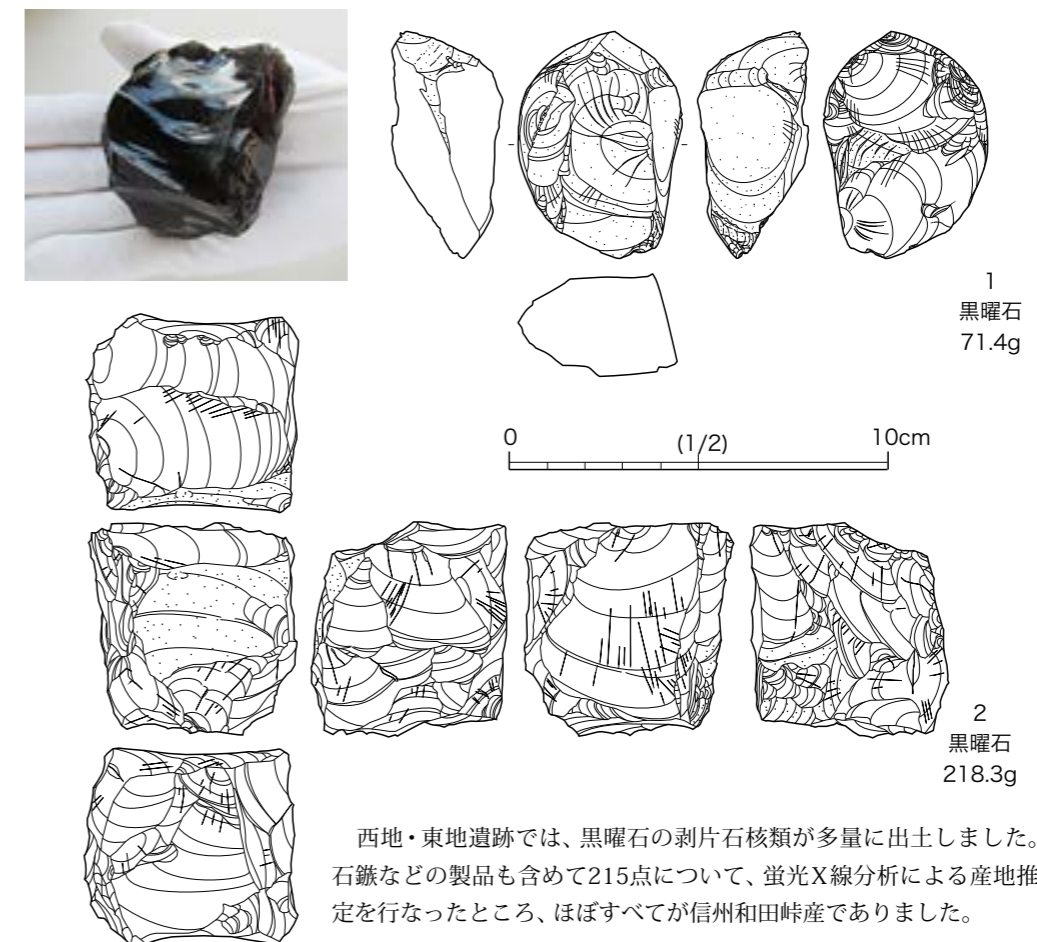


図2 西地・東地遺跡出土 黒曜石 石核

西地・東地遺跡では、黒曜石の剥片石核類が多量に出土しました。石鏃などの製品も含めて215点について、蛍光X線分析による産地推定を行なったところ、ほぼすべてが信州和田峠産でありました。

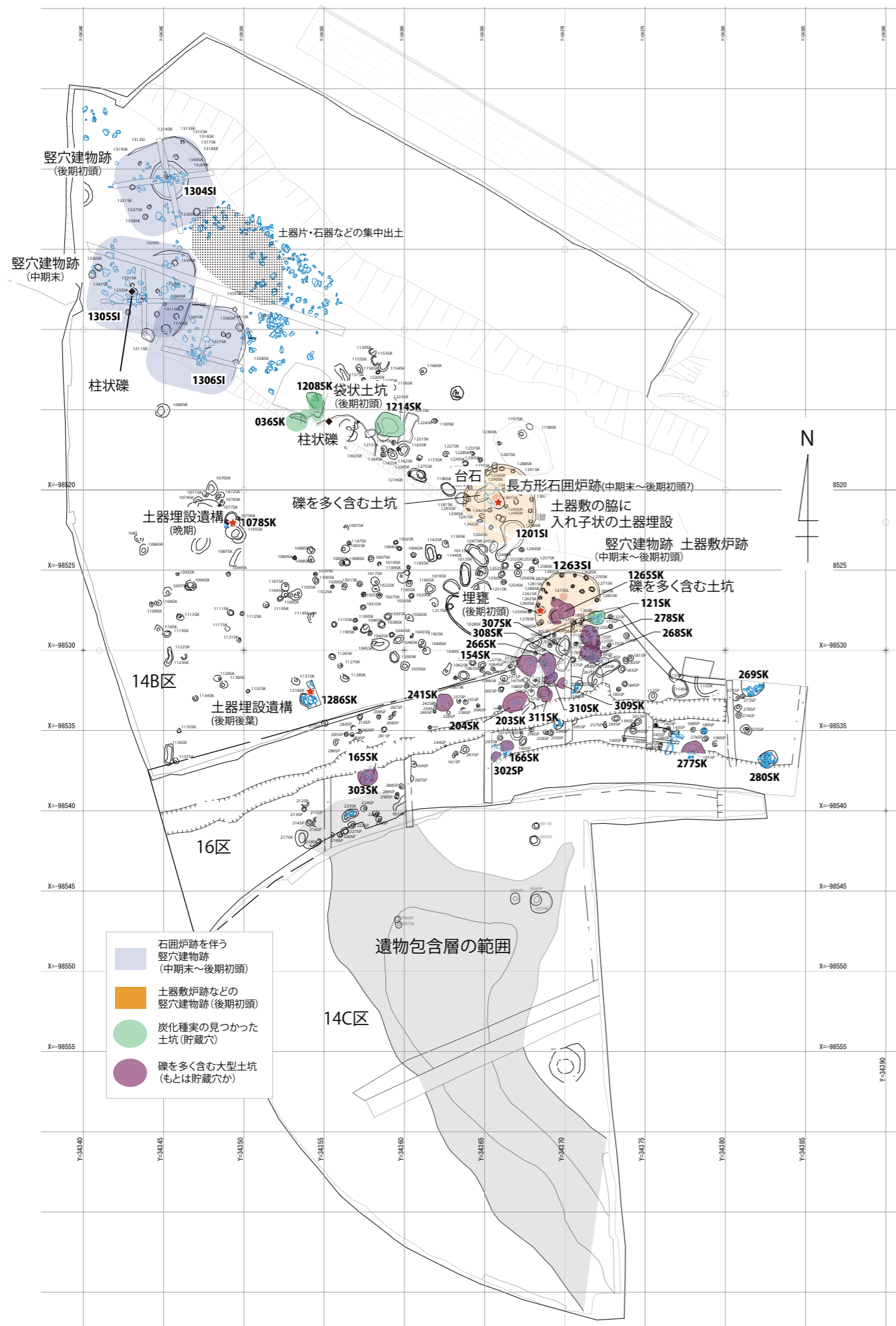


図3 西地・東地遺跡縄文時代遺構位置図(1:300)【マス目は5m】

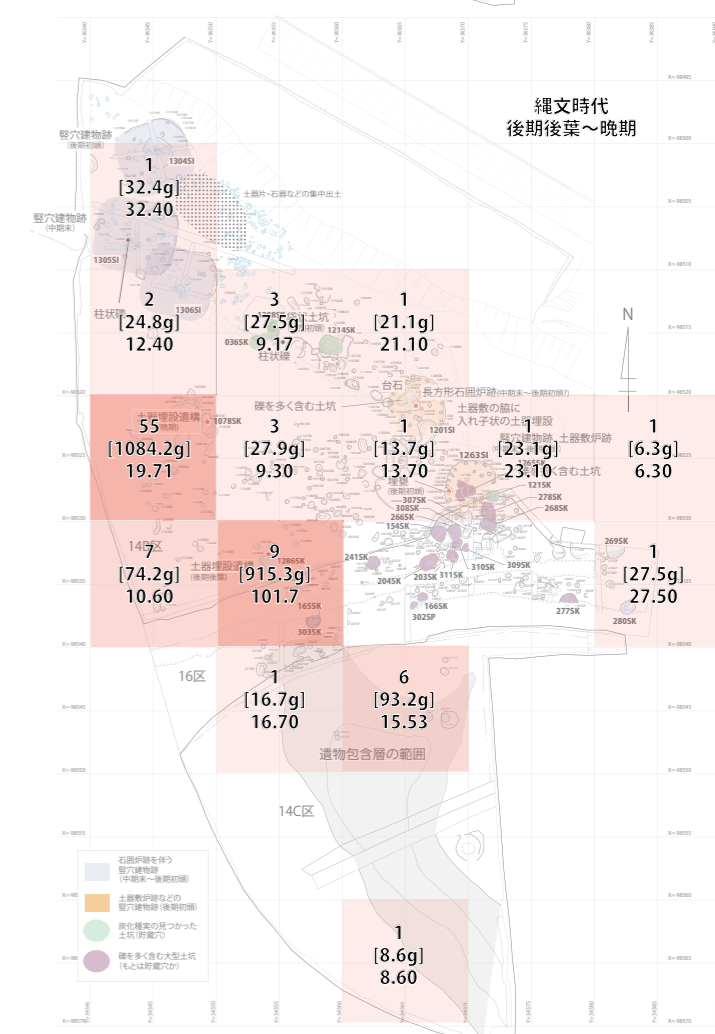
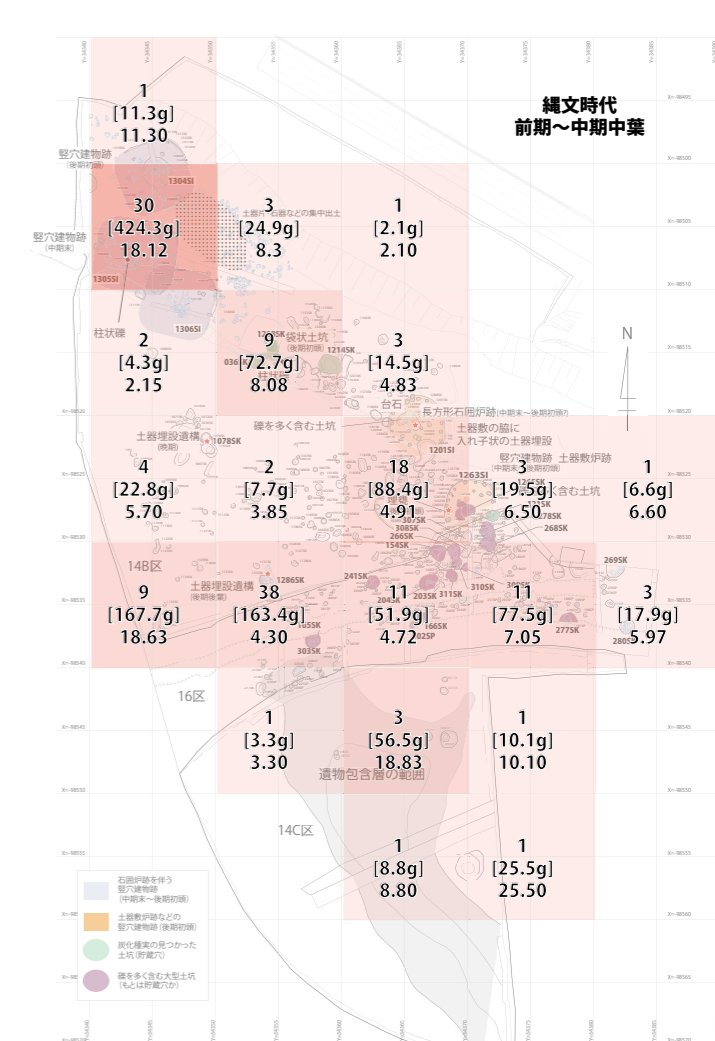
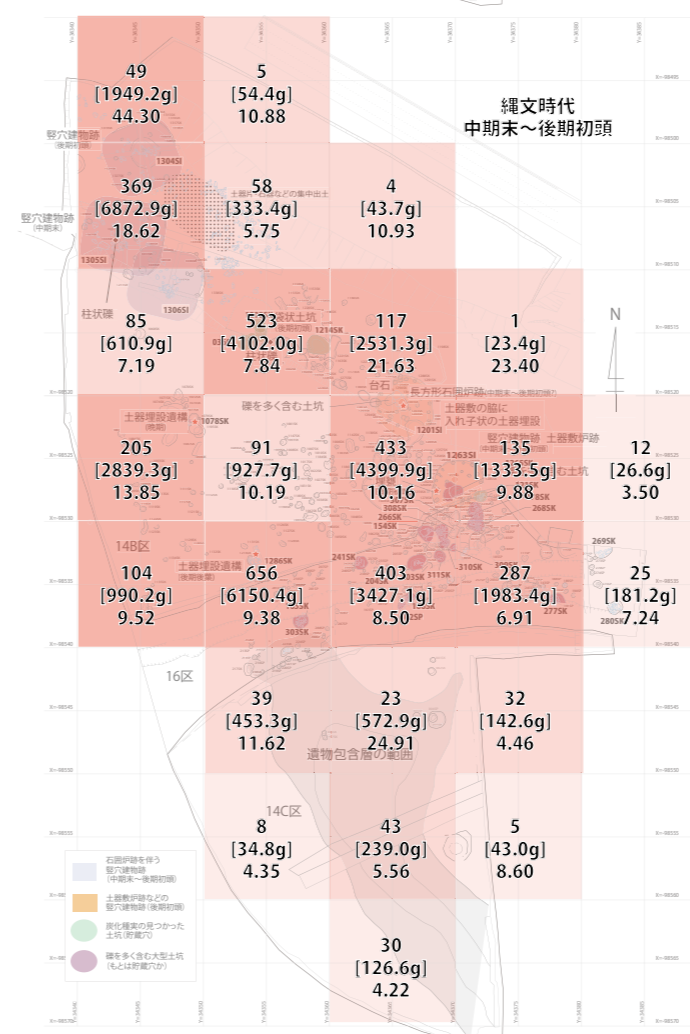
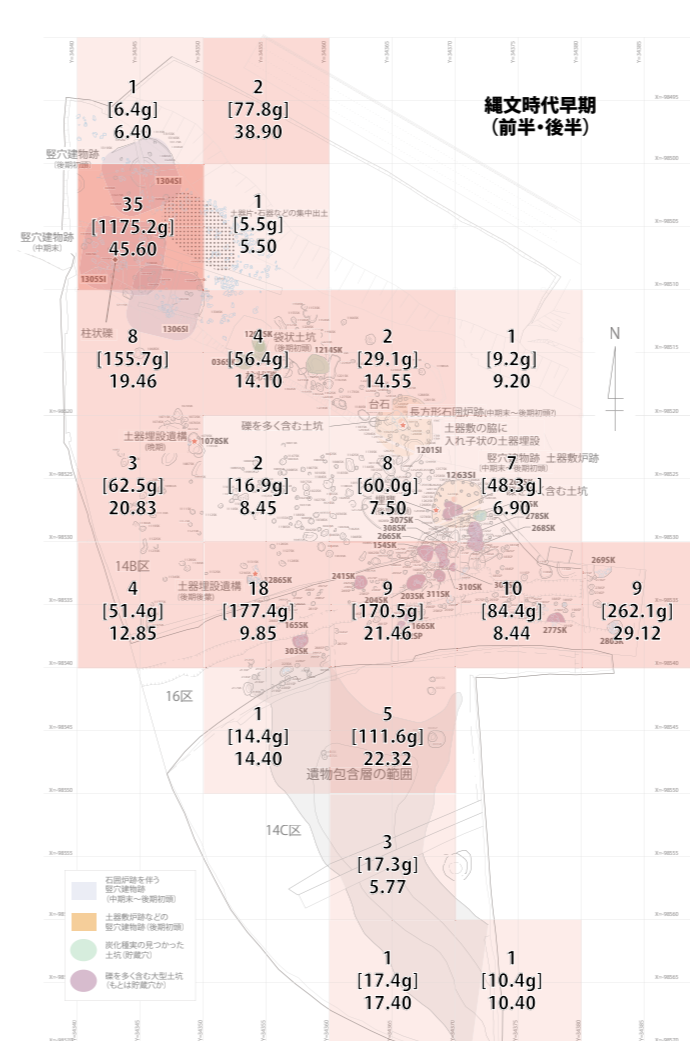
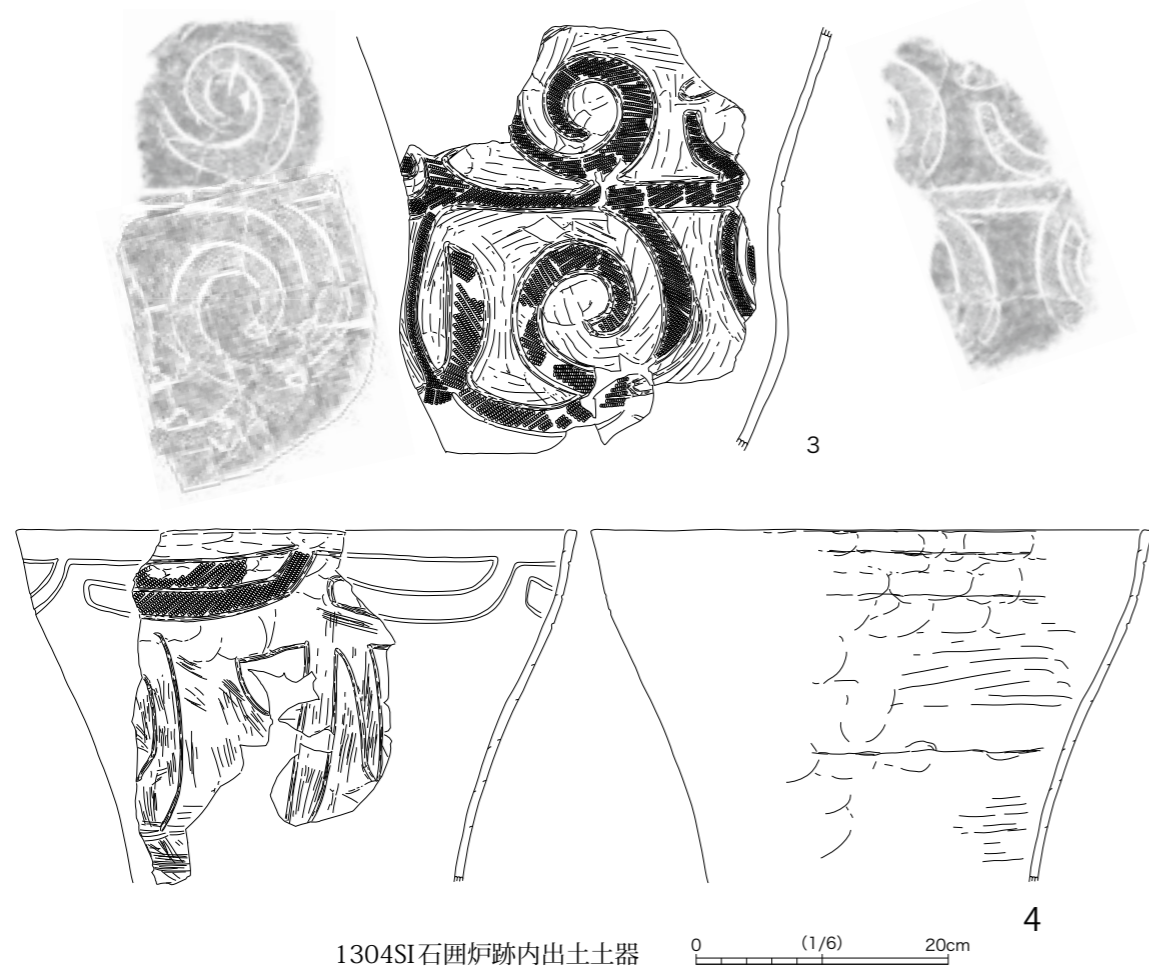
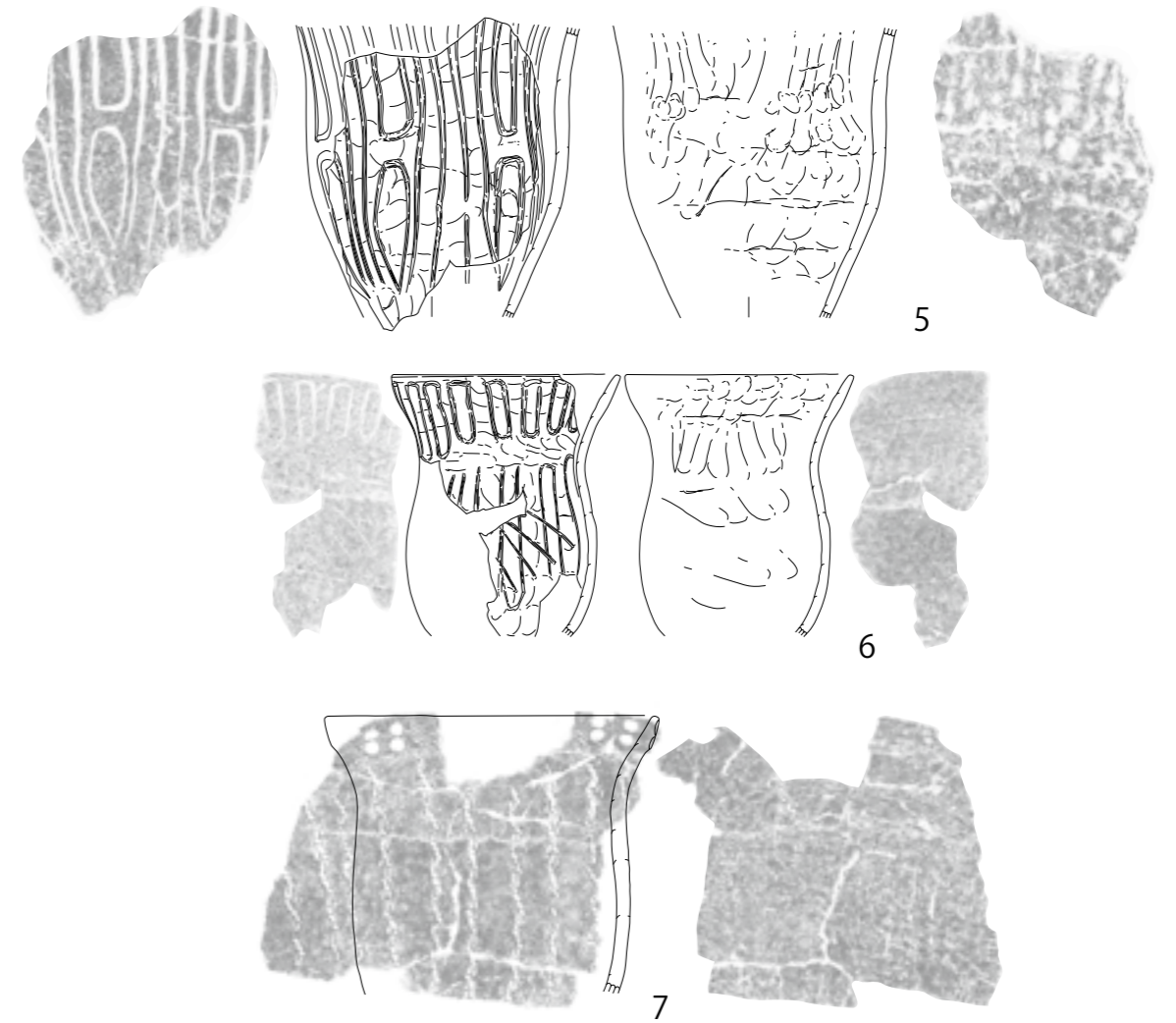


図4 西地・東地遺跡縄文土器出土傾向図(1:600)



1304SI石囲炉跡内出土土器



1305SI石囲炉跡内出土土器



1304SIおよび1305SIの石囲炉跡内からは、深鉢の大型破片が、それぞれ複数個体分出土しました。土器自体には、著しい被熱による劣化は認めれないため、炉の機能終了時に、大型の土器破片が入れられたようです。

これらの土器は、縄文時代中期末から後期初頭の時期のもので、いろいろな形や文様の土器がありますが、炉内に人為的に入れられたことから、1304SIおよび1305SIのそれぞれで、これらの土器群は同時期に存在していた事を示しています。このように、これらの土器群は、今後の研究上の指標となるような学術的評価の高い資料群になるといえます。

講演 私たちが北設楽で縄文時代の遺跡を調査したころ

磐田市文化財保護審議会会長 平野 吾郎

I はじめに

II 調査した遺跡と目的

○ 調査した遺跡

○ 目的

- 1 縄文土器の形式学的な研究・・・そのころの縄文時代研究の主流
- 2 弥生時代の始まった頃の東海地方は？
「水神平式土器とその前後」
「水神平式土器」は縄文土器か？弥生土器か？
弥生土器＝米栽培（農耕社会の）が行なわれている時代の土器

○ 各遺跡の調査

- 1 神田中向遺跡 神田字中向 昭和41(1966)年3月
- 2 神谷沢遺跡 豊邦字神谷沢・・・田口郷土館 昭和42年(1967)年3月
- 3 下谷遺跡 大名倉字下谷 昭和43(1968)年3月
- 4 麦田遺跡 東納庫字万場 昭和43(1968)年11月

III 近年の縄文時代研究と最近の設楽地域の調査

○ 近年の縄文時代研究の特徴

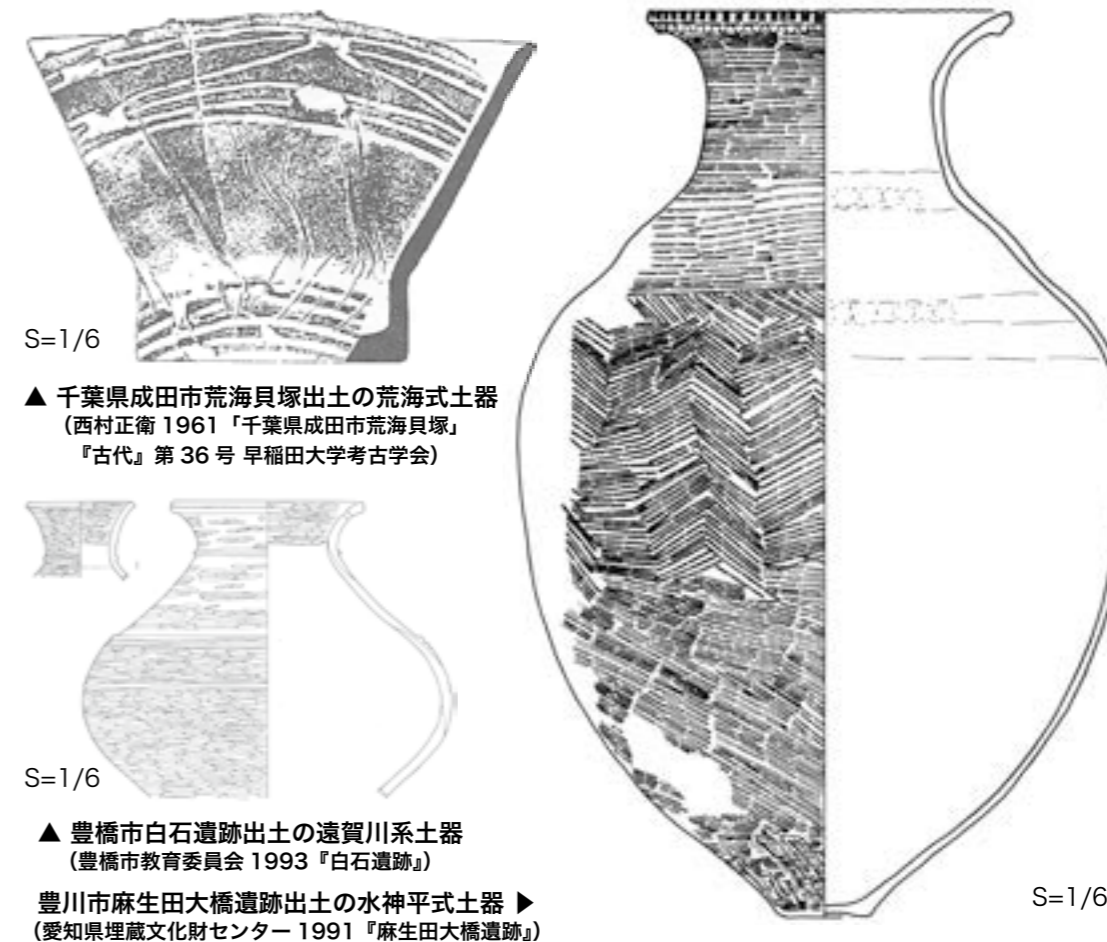
- 1 土器（編年）研究からの脱却・・・縄文文化の研究
- 2 学際的な、組織的な研究・・・豊川下流域の貝塚調査
- 3 地域の歴史の一部
・・・地域に成果が公開される・・・現地説明会

○ 北設楽の調査では

- 1 土器と石器が出土している・・・貝や骨は期待できない
新しい調査方法がとられている・・・理化学的な分析を含めて
- 2 広い面積の調査が行なわれている・・・部分的でなく、集落の様子を見せている
- 3 地域を系統的に、悉皆的に調査している
河川流域の段丘、低い丘陵・・・縄文集落が営まれた場所は限定されている
・・・この流域の集落を数多く調査している
・・・集落の構造や集落間関係・・・縄文社会の構造の検討



遺跡位置図



おおなぐら
大名倉遺跡について

愛知県埋蔵文化財センター 永井邦仁・川添 和暁

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字滝ノ上、滝ノ下、下谷、南貝津(北緯35度6分41秒 東経137度32分37秒)

調査期間：昭和43年(早稲田大学)、平成19・20・25～28年(範囲確認調査)

調査面積(範囲確認)：総計516㎡

調査担当者(範囲確認)：宮腰健司・松田訓・酒井俊彦・鈴木正貴・川添和暁・永井邦仁

立地と発掘調査の概要

大名倉遺跡は、豊川上流右岸に所在する縄文時代～江戸時代の遺跡です。遺跡は豊川に面する標高440～447mの段丘面を中心に、一部は標高470mの山裾にまで広がっています。

本遺跡では昭和時代の始め頃から土器や石器が採集される遺跡として知られ、設楽町奥三河郷土館には多数の遺物が所蔵されています。昭和43(1968)年3月には早稲田大学の桜井清彦教授らによって発掘調査が行われました。愛知県埋蔵文化財センターでは平成19(2007)年以降、設楽ダム事業において範囲確認調査を行い、総計223か所の試掘トレンチによって遺構や遺物の分布状況や土層についての確認を行いました。

大名倉遺跡の縄文時代集落について

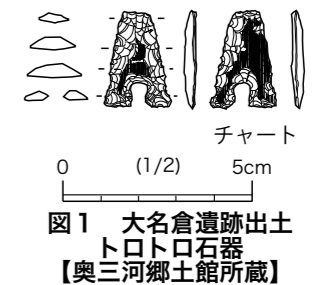
大名倉遺跡の範囲確認調査では、縄文時代中期後半～後期初頭と同後期中葉～後葉の土器が多く出土しています。トレンチごとに集計すると(表1)、それぞれの分布が異なっている点に注目することができます。つまり前者は標高448～452mの比較的高い斜面地に分布しているのに対し、後者はそれより低く傾斜の緩い段丘面に分布しているのです。このことはそれぞれの時期の集落(生活域)が微妙に異なっていることを示していると考えられます。さらに若干量がみられる縄文時代早期の土器も斜面地で限定的にみられる点も重要です。

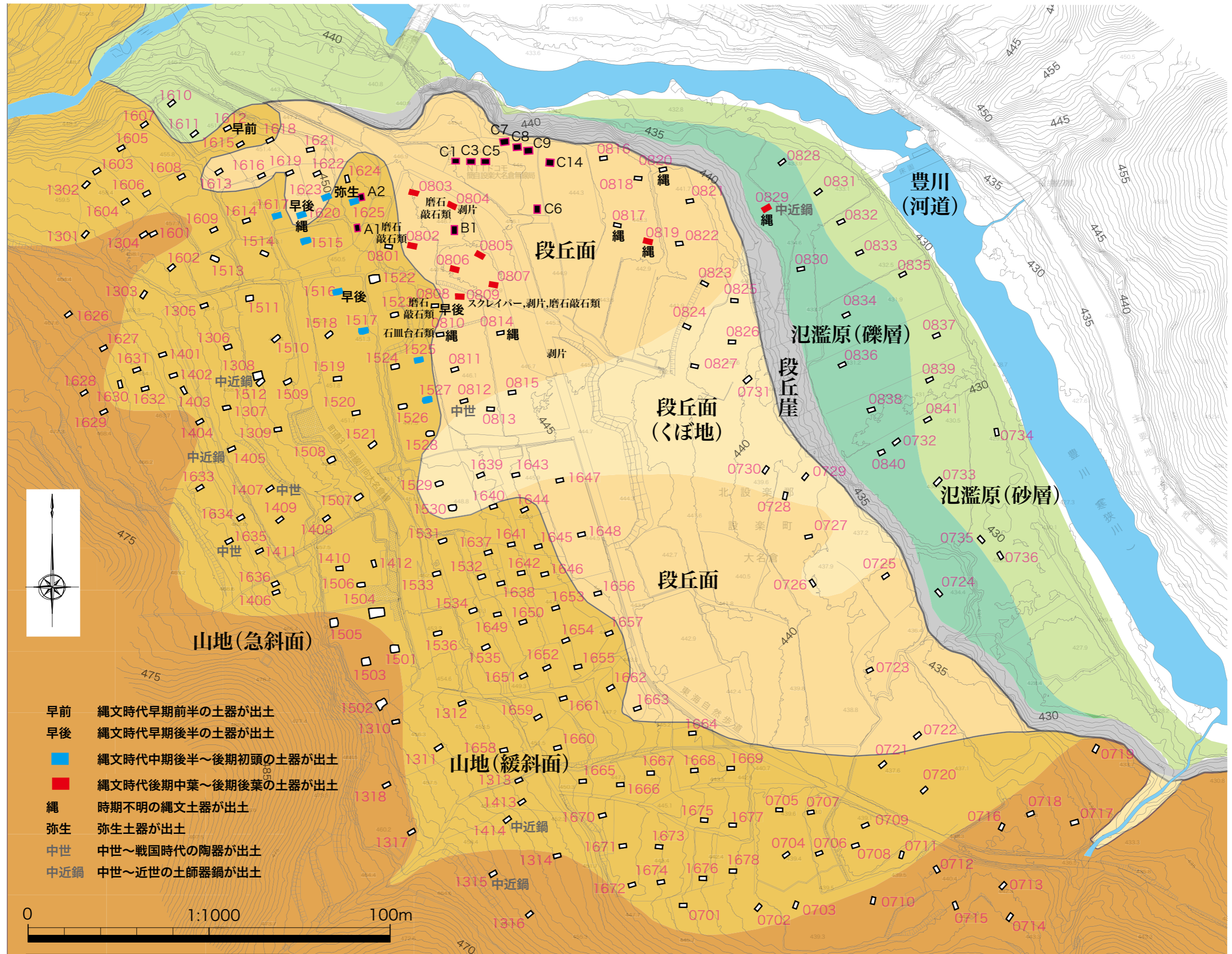
以上のように遺物の出土状況からみる縄文時代集落の広がりや分布は約70m四方とみられます。また、その南側はくぼ地になっていたことも調査で確認された^{きぼんそう}基盤層や湧水の状況から描き出すことができます。このように縄文時代の集落は^{びちけい}微地形と深く関わって立地していたことがわかってきました。

表1 大名倉遺跡 範囲確認調査遺物 出土状況一覧表

調査年	TTNo.	遺構	縄文時代					弥生時代	中世～戦国期 陶器	中世～近世 ナベ	近世以降 陶器・磁器	石器
			早期前半	早期後半	中期後半～後期初頭	後期中葉～後葉 (後葉主体)	縄文不明					
08	01											磨石敲石類1
08	02					7 [38.2g]						
08	03					5 [15.9g]						
08	04	○				51 [405.4g]						破片2・磨石敲石類1
08	05					10 [45.2g]						
08	06					13 [69.4g]					1 [0.9g]	
08	07					37 [198.8g]					1 [4.1g]	磨石敲石類2
08	08		1 [6.2g]			4 [25.4g]						大型剥片1・磨石敲石類1
08	09					54 [524.6g]					3 [16.3g]	スクレイパー2・剥片2・ 大型剥片1・磨石敲石類4
08	10						3 [7.9g]				1 [2.2g]	剥片1・大型剥片石核1・ 石皿台石類1
08	12							1 [7.7g]			2 [6.3g]	
08	14						2 [6.8g]					
08	16											磨石敲石類?1
08	17						3 [8.4g]					剥片1
08	19					1 [4.2g]	6 [9.8g]					
08	20						1 [2.6g]					
08	29					2 [63.2g]	1 [3.0g]				1 [3.7g]	
08	40										1 [1.9g]	
13	05										5 [113.3g]	
13	10										1 [1.2g]	
13	14										1 [4.2g]	
13	15									1 [43.4g]		
13	18										6 [46.1g]	磁石1
14	01										2 [41.6g]	
14	02										4 [71.3g]	
14	03										6 [28.0g]	
14	04										10 [48.8g]	
14	05									1 [19.4g]	11 [140.4g]	
14	07							1 [60.7g]			2 [4.4g]	
14	09										7 [76.5g]	
14	10										2 [25.4g]	
14	14								1 [4.0g]		1 [4.4g]	
15	01										1 [2.3g]	
15	04										1 [17.6g]	磁石2
15	07										2 [56.0g]	
15	12									4 [40.7g]		
15	15					2 [8.7g]						
15	16	○	1 [8.9g]	23 [139.5g]								剥片2・磁器1・打欠石種1
15	17			2 [8.2g]								
15	21										1 [27.9g]	
15	22										1 [31.2g]	
15	25					1 [8.7g]					7 [40.8g]	
15	26										3 [15.4g]	
15	27					2 [8.1g]					10 [122.6g]	
16	01										1 [4.5g]	
16	12		1 [150.0g]									剥片1
16	17					2 [11.9g]						
16	20					2 [21.7g]	2 [13.6g]				3 [15.7g]	磨石敲石類1
16	23					1 [5.8g]						剥片1
16	25	○				61 [496.2g]					1 [12.7g]	剥片1・磨石敲石類1
16	30										2 [85.6g]	
16	32										1 [8.8g]	
16	33										4 [10.1g]	
16	34										1 [6.0g]	
16	35							1 [3.1g]				
16	36										3 [83.2g]	
16	39										1 [1.2g]	
16	40										1 [17.1g]	
16	50										1 [2.5g]	
16	60										1 [3.6g]	
16	68										1 [3.3g]	
16	70										2 [4.3g]	

大名倉遺跡では、縄文時代、中世から戦国期、さらには近世以降の遺物が出土しています。上表の赤枠は、縄文土器が多く出土したり、大きな破片の状態で出土したことを示しています。これは、その調査場所(トレンチ)での遺跡の保存が良好であったり、当時のヒトの活動により形成された包含層が安定して存在していることを示しています。





- 早前 縄文時代早期前半の土器が出土
- 早後 縄文時代早期後半の土器が出土
- 縄 縄文時代中期後半～後期初頭の土器が出土
- 縄 縄文時代後期中葉～後期後葉の土器が出土
- 縄 時期不明の縄文土器が出土
- 弥生 弥生土器が出土
- 中世 中世～戦国時代の陶器が出土
- 中近鍋 中世～近世の土師器鍋が出土

図2 大名倉遺跡のトレンチ配置と出土遺物の分布状況

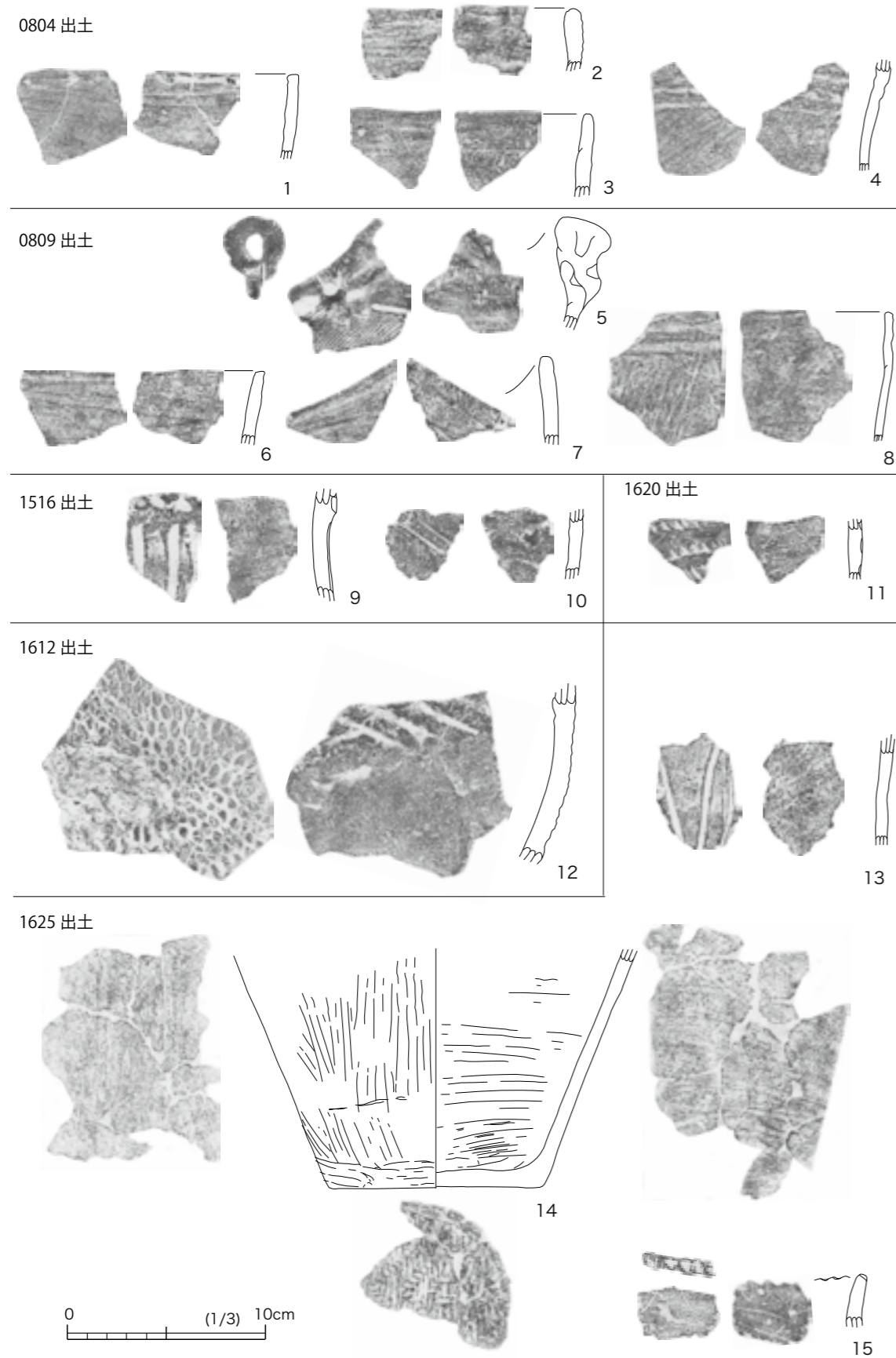


図3 大名倉遺跡 範囲確認調査出土 縄文土器

PhotoScanによる3D元データの取得

はじめに

最近のデジタル技術の進歩は素晴らしく、物の大きさや形をデジタル化するのに、レーザスキャナーなどの高額な機械を使わなくてもできるようになってきました。複数枚の写真を用意し、安価な(もしくは無料の)パソコンソフトを使うだけで、3次元データを入手できるのです。またその技術を使って、文化財の記録保存を図る動きも始まっています。例えば、長崎大学が行っているNAGASAKI 3D PROJECTでは、^{ぐんかんじま}軍艦島全体が3次元モデルとしてwebで公開されています。また九州文化財計測支援集団による^{こまいぬ}狛犬などの指定文化財の3DデータなどもSketchfabを介して公開されています。

そこで、当センターでも今年度の大畑遺跡とマサノ沢遺跡において、3Dデータの活用を考えるためにPhotoScanというソフトを使ってみました。

試行の結果

今回の結果は、成果報告会の幕間にご紹介します。3次元データを容易に入手できることから、^{しゅうせきこう}集石遺構のような複雑なもの、大型の竪穴建物跡など大規模な遺構の記録などに活用できそうです。また、3Dデータの公開方法についてもwebや動画、PDFなどが可能であることがわかりました。

(愛知県埋蔵文化財センター 堀木真美子)

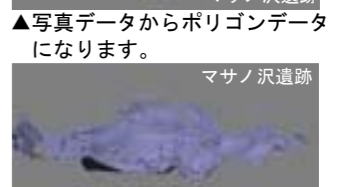
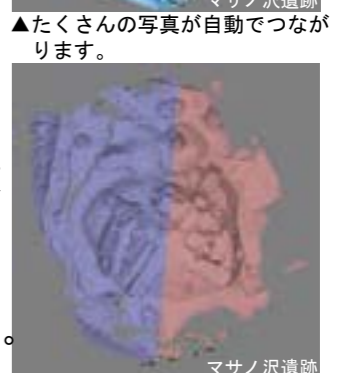
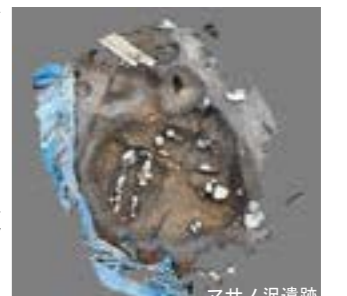
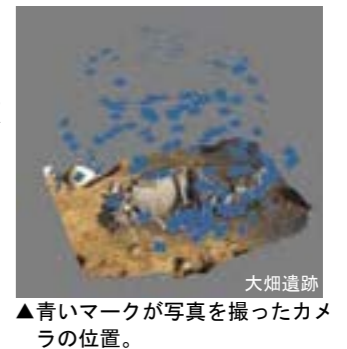
★使用ソフトなど

画像処理ソフト: Agisoft PhotoScan Standard Version 1.4.0 build5650(64bit)

使用パソコン: iMac(Retina 4K 21.5-inch, 2017)

CPU: Core i7 3.6GHz メモリ: 16GB

参考になる3D公開サイト: <https://sketchfab.com/CMAQ>



年代	時代	主なできごと	愛知県の遺跡
3500年前	後期旧石器時代	台形様石器・ナイフ形石器 ・局部磨製石斧の出現	上品野遺跡(瀬戸市)
2500年前	縄文時代 後期	鹿兒島県始良カルデラ(A.T.)の降灰	茶白山遺跡(豊根村)
1500年前	縄文時代 前期	土器の発明・弓矢の使用 水河期が終わる	駒場遺跡(豊川市)
6000年前	縄文時代 前期	気候の温暖化による海進	萩平遺跡(新城市)
5000年前	縄文時代 中期	貝塚の形成	川向東貝津遺跡(設楽町)
4000年前	縄文時代 後期	寒冷化し、海退した低地にも生活を始める	多り畑遺跡(豊橋市)
3000年前	縄文時代 後期	土器棺墓群が形成される	滝瀬遺跡・大栗遺跡(設楽町)
2500年前	縄文時代 後期	稲作の開始 環濠集落の出現	大安寺遺跡(豊田町)
A.D. 1年	弥生時代	金属器の使用・銅鐸の使用	鞍舟遺跡(設楽町)
300年	古墳時代	女王卑弥呼邪馬台国を統治する	大根平遺跡(設楽町)
600年	飛鳥時代	大和政権の出現・各地に古墳の造営	西地・東地遺跡(設楽町)
700年	飛鳥時代	仏教の伝来	毛り下遺跡(新城市)
743年	奈良時代	乙巳の変(大化の改新)	石岸遺跡(新城市)
794年	奈良時代	平城京遷都	万瀬遺跡・大畑遺跡(設楽町)
800年	平安時代	東大寺大仏建立の詔・国分寺	大名倉遺跡(設楽町)
900年	平安時代	平安京遷都	吉胡貝塚(田原市)
1000年	平安時代	藤原氏の摂関政治	宮嶋遺跡(豊根村)
1100年	平安時代	武士の台頭	マサノ沢遺跡(設楽町)
1200年	鎌倉時代	源頼朝征夷大将軍となる	麻生田大橋遺跡(豊川市)
1300年	鎌倉時代	元寇(文永・弘安の役)	椋平遺跡(東栄町)
1400年	室町時代	足利尊氏室町幕府を開く	白石遺跡(豊橋市)
1500年	室町時代	応仁の乱	瓜郷遺跡(豊橋市)
1600年	戦国期	長篠の戦い	西向遺跡(東栄町)
1700年	江戸時代	徳川家康江戸幕府を開く	欠山遺跡(豊川市)
1800年	江戸時代		馬越長火塚古墳(豊橋市)
1900年	近代・現代	大政奉還	屋木下古墳(設楽町)
2000年	近代・現代	太平洋戦争終結	丸根古墳(設楽町)

縄文時代は、一万年以上にもわたる長い時代です。そのため、研究者の間では次のように六期に分けられています。

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 草創期(15,000年前～11,000年前頃) | 早期(11,000年前～7,000年前頃) |
| 前期(7,000年前～5,500年前頃) | 中期(5,500年前～4,500年前頃) |
| 後期(4,500年前～3,200年前頃) | 晩期(3,200年前～2,500年前頃) |

平成 29 年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設案発見伝4 配付資料

平成 30 年 3 月 3 日 発行



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

電話 調査課 (0567) 67-4163
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

HP <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun